
隣のぬくもり/銀神

琴椿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隣のぬくもり／銀神

【コード】

N3010J

【作者名】

琴椿

【あらすじ】

大好きなあなたへ。絶対に、いなくならないで…

前編（前書き）

恋愛じゃないんで、家族なんで。

前編

夢を見た。

大好きなあの人が、二度と帰ってこない夢を。

「ッッ銀ちゃんッッッ！！！！！！」

自分でも驚くぐらいの大声。

間髪いれずに彼の胸に飛び込んだ。

「何??え??ゴキブリ??」

驚きながらも優しく頭をなでてくれる彼が消えてしまいそうで…

怖かった。

「変な夢でも見たかア??」

「大丈夫アル…」

夢のことを話せば、きっと混乱するだろう。

そうでなくても、笑われて終わる。

この重い胸のわだかまりをずっと残しておくより、そっちの方がい

いのだろっけねど。

「…まあいいや。飯だぞー…」

あまり深く聞いてこない銀ちゃん。

…そこに彼の優しさが溢れているのだと思うと、自然に笑みがこぼれた。

そう、ただの夢。

いつもと変わらない日々。

「…また卵かけご飯アルか?？」

いつもと変わらない食卓。

これもまた、私を安心させてくれる。

「あのなア、誰のせいで家計圧迫してると思ってんだ!?!」

彼は強い。

そつとやちよつとでは死なないだろう。

…けれど。

そんな彼だけど、彼の周りには敵が多すぎる。

…それも、ヤバい相手が。

あのバカ兄貴だって、いつこっちに来るかわからない。

鳳仙のときだって、袋叩きにしたから偶然勝てただけであって…

銀ちゃん一人だったら…死んでいただろう。

…嫌な予感がするの…

今日だけでいい。

思いつきり、甘えさせて…

後編

今日は朝から神楽が変だ。

いきなり俺の名前呼んで起きるし、

俺の顔見てボロボロ泣くし……

悪い夢でも見ていたのだろうか…

なんか神楽の夢って当たりそうだな〜怖いな…

なんちゃって。

でもやっぱり、いつものうるさい神楽に戻ってほしい。

そんな思いとは裏腹に、神楽の涙はいつこつに止まる気配を見せない。

「…神楽ちゃん…??」

名前を呼んでも、黙って腕にしがみつくだけ。

俺の着物が涙でぬれていく。

「…おい…大丈夫か…??」

小さな肩が、ふるふると震えている。

…こんなに小さかったんだなア…

妹みたいで、なんかかわいい。

便所に行こうとして立ち上がると、あわててちょこちょこ連いて来て、

大丈夫だからって言って待たせて出てくると、待ってましたと言わんばかりに抱きついてくる。

…いつもは辛口でムカつく彼女だけど、実はこんなにさびしがり屋でかわいいんだ。

「…いきなりいなくならないでネ…?」

いなくなる???

あ、何、そっついう系の夢???

「何言ってるんだよ……」

いなくなるわけないだろ……

お前も新八も…ついでに定春も、俺の大事な家族なんだから…

いなくなったり、しないよ。

言葉で伝えるのはさすがに恥ずかしいので、優しく頭をなでて伝えようとする。

そう。

絶対に、俺はいなくなったりしない。

俺だってまだ、お前らと一緒にいたいから。

隣のぬくもりは、俺のもの。

後編(後書き)

銀サソちよつと…WW
WW

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3010j/>

隣のぬくもり/銀神

2010年10月9日21時55分発行